弱玉奈

十三編
十四編
十五編

へ13
3696
5

西國奇談十三編
國貞画
春水補綴
外題無之(閑)

西國奇談十四編
國貞画
外題画五郎
春水補綴
上

西國
奇談
十五編
國貞画
春水補綴
上
下

門 へ13
號 3696
巻 5

きんぎょ番づけ

東 三ふ五厘ん

西 まの死

南 ふかひろ馬

北 春雨堂梓

東方人 京屋

舌切雀の。重い笥籠ふ。百鬼夜行の形紙籠め。桃太郎の。桃うら生き。蟹の仇討。兎の義使枯木ふ花咲爺イかと。道理ふ。乗る方もあれ。虚談ふ似されど。佛家ふ所謂善巧方便。又是勸善懲悪と稱き耳ふ示さんとする。老婆心ふくあるべ死欲。現ふ嘘ふ似さ。真ハ説くとも。真ふ似さる。嘘ハ吐くなと言ふが中ふも合巻ハ。素より虚語ふ成看板ふ。出して綴さる。所為ふ。うれど。食言ふ出さる真ハあれど。猶是とても棄ぬらもバ。掬飯ふ換えて。梅の交うら。茅の出さよりも。僥倖ふあらんか。

文久二稔
壬戌新春

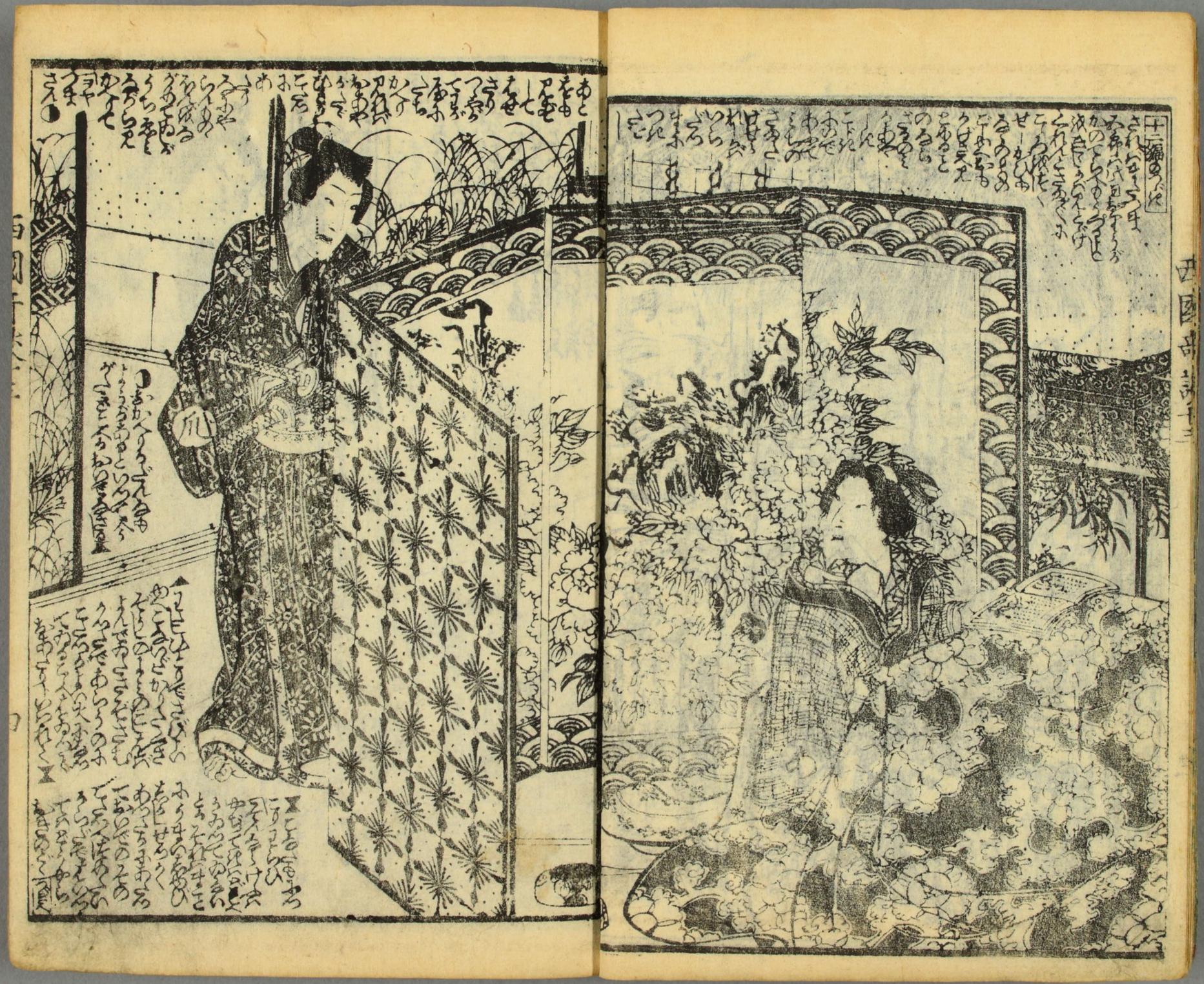
爲永春水誌

妖狐の悪霊

毒婦阿竜

賤女
浪子

木村龍太郎



爪
逆

あ
妙

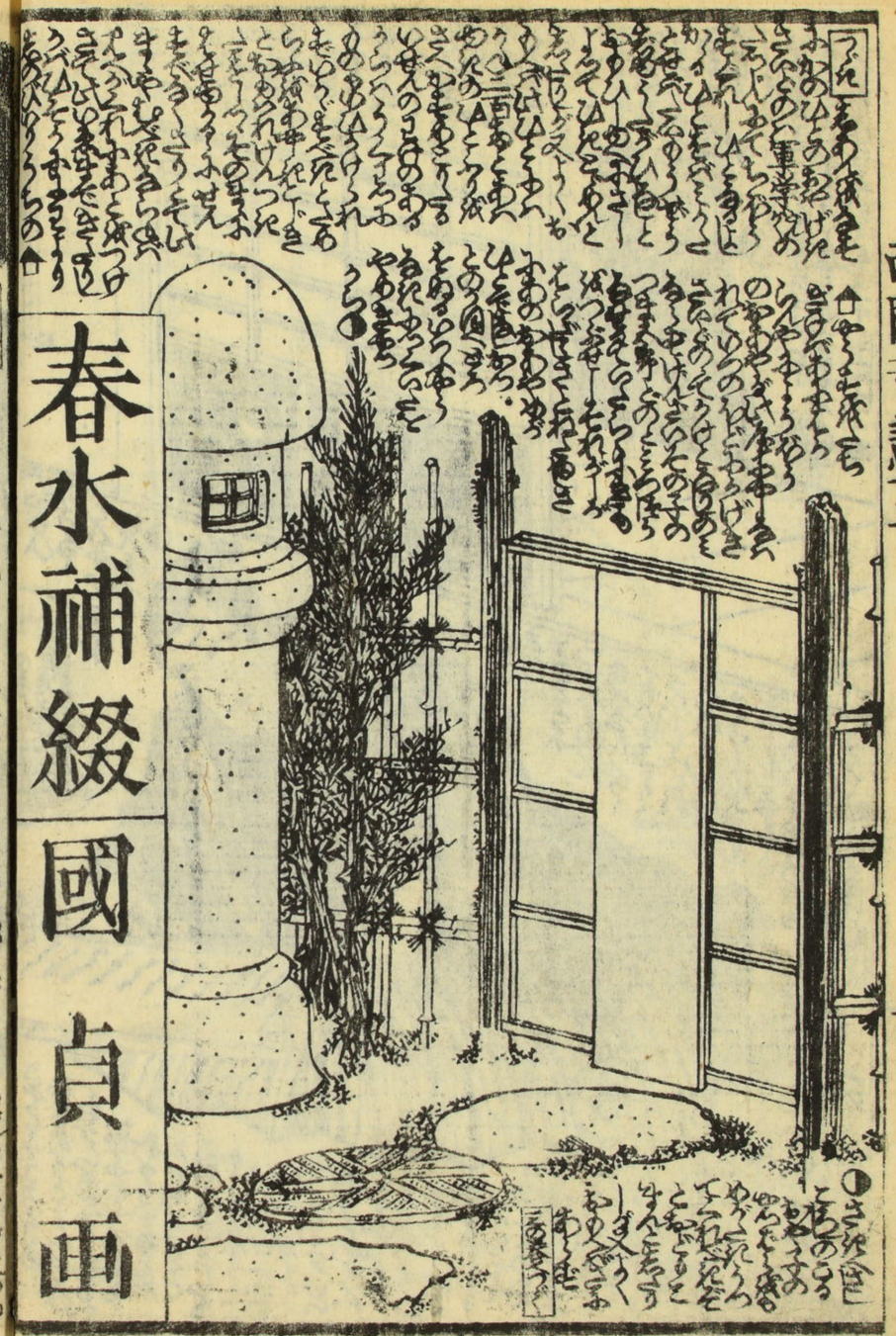
美しき人の妻
柴六が物語
を圖せ

妖

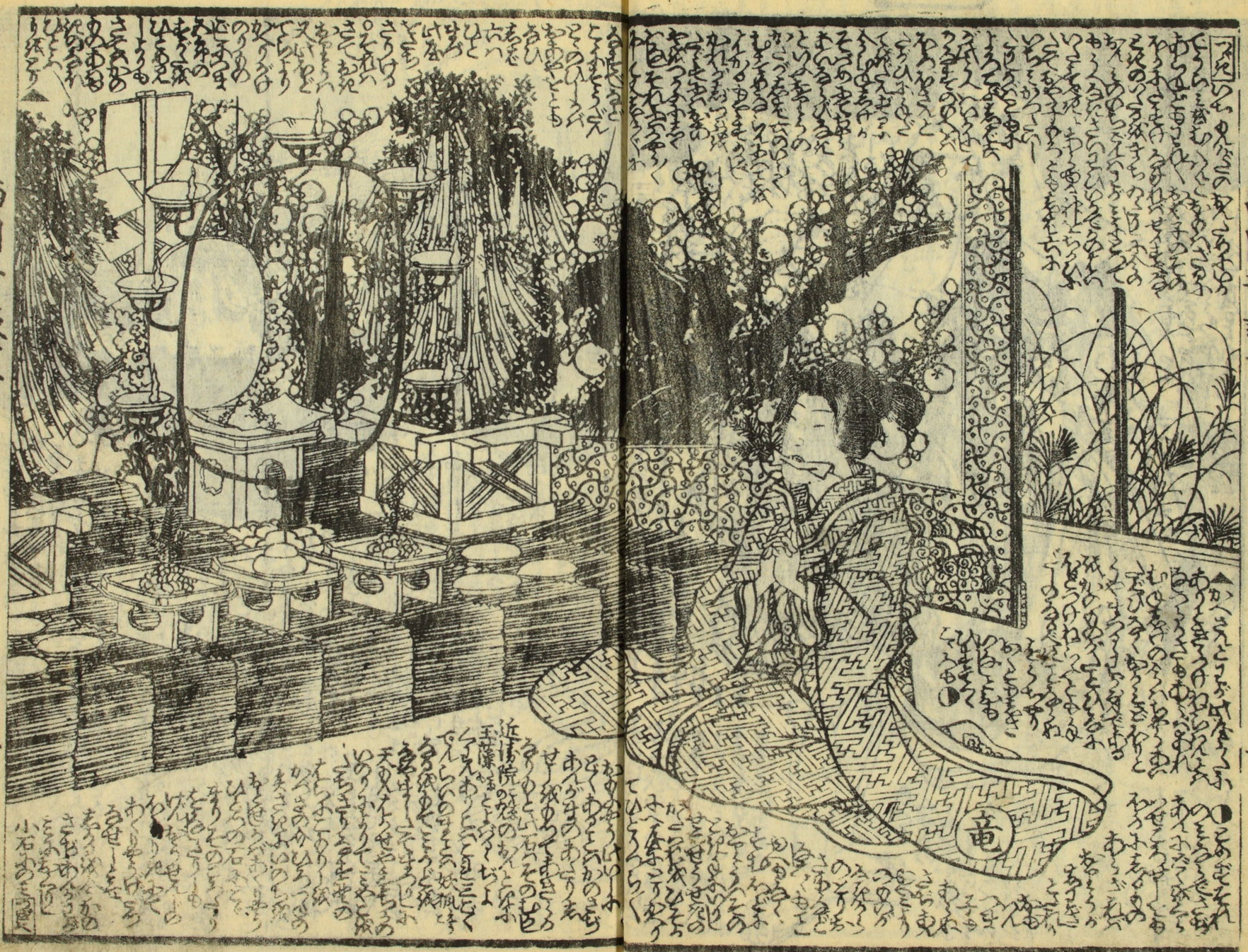
妖

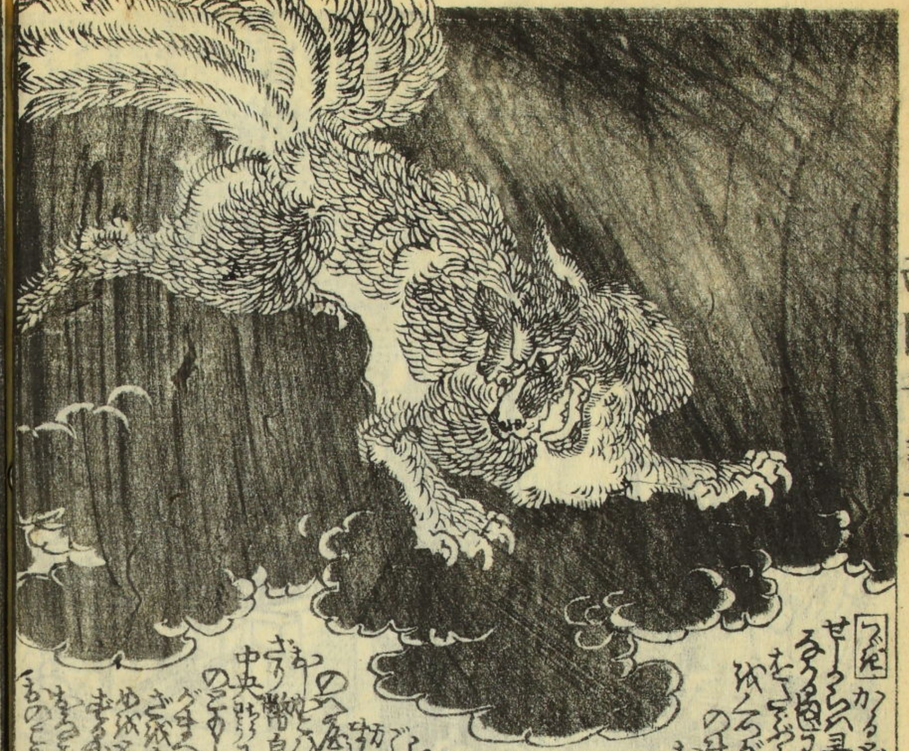
妖

妖



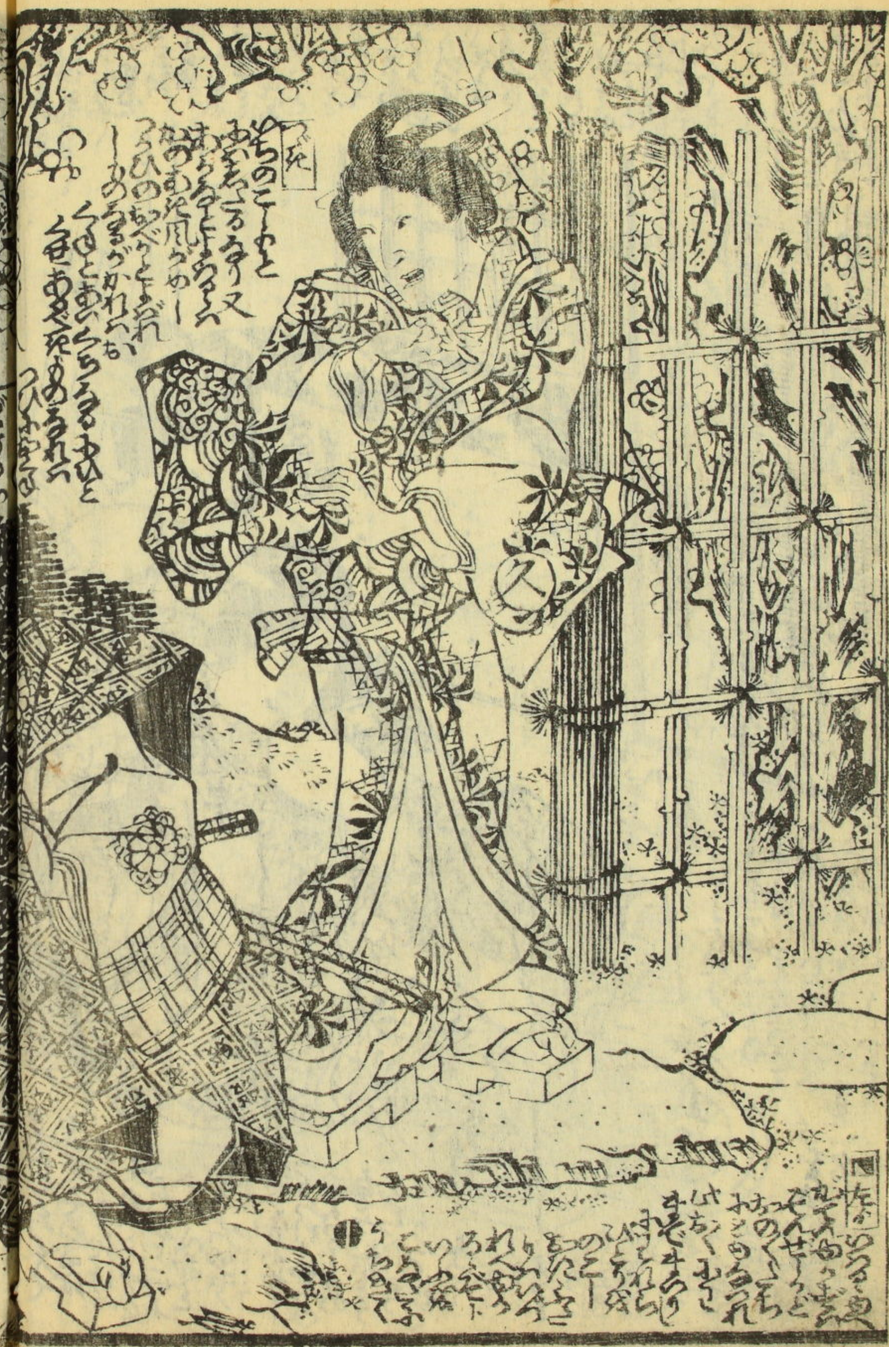
春水補綴國貞画


竜



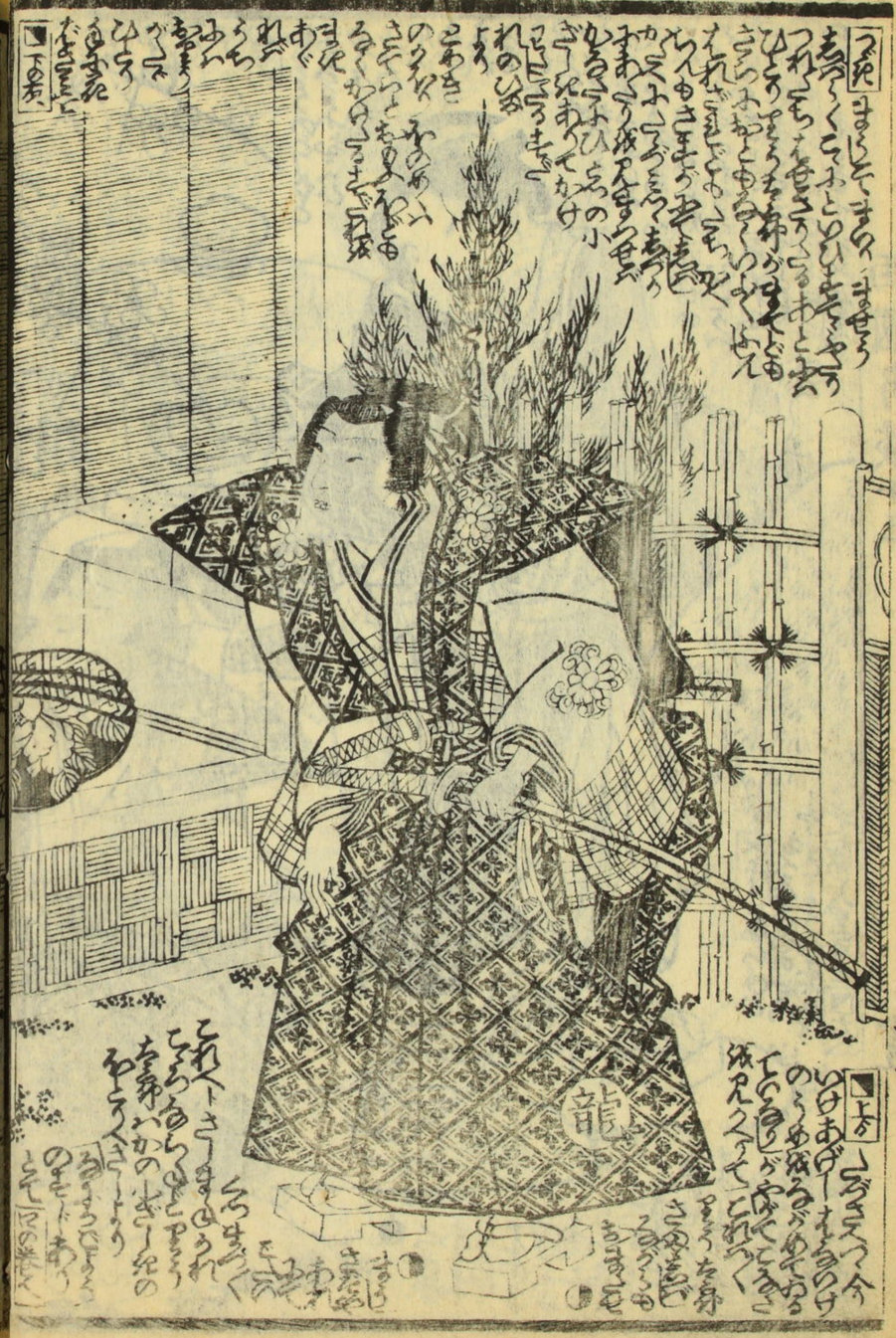
竜

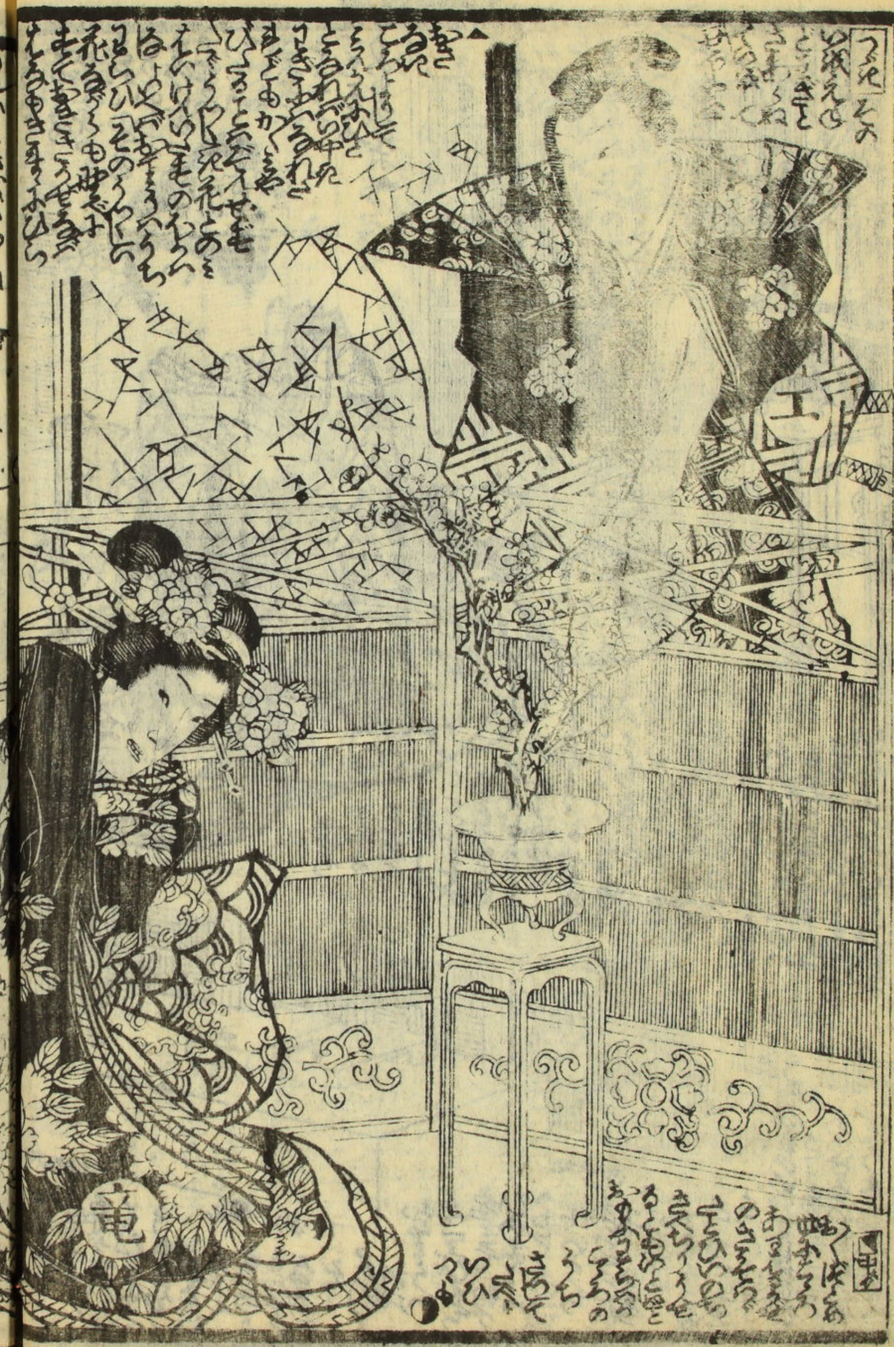
赤
竜
久


久

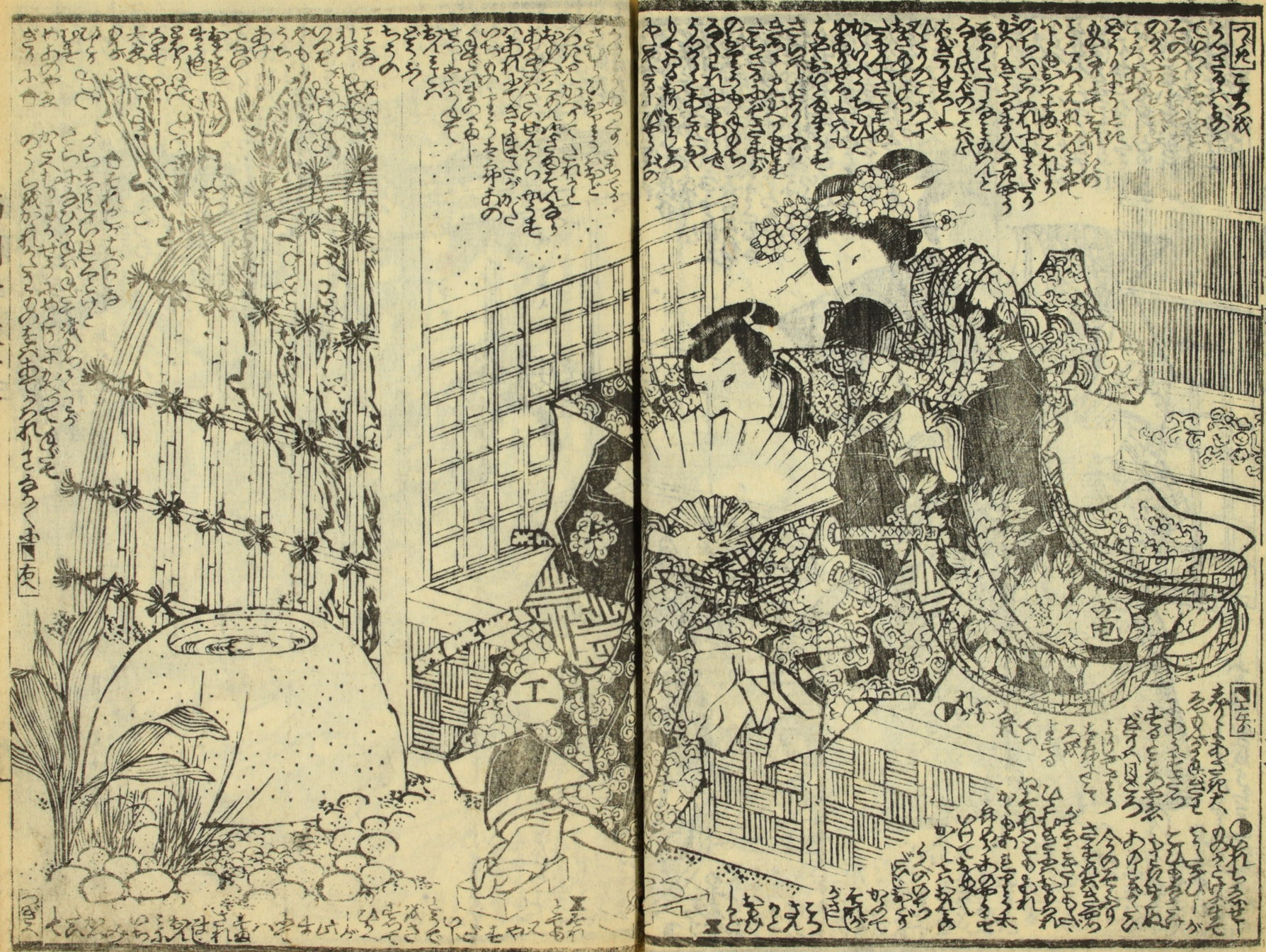
赤
龍

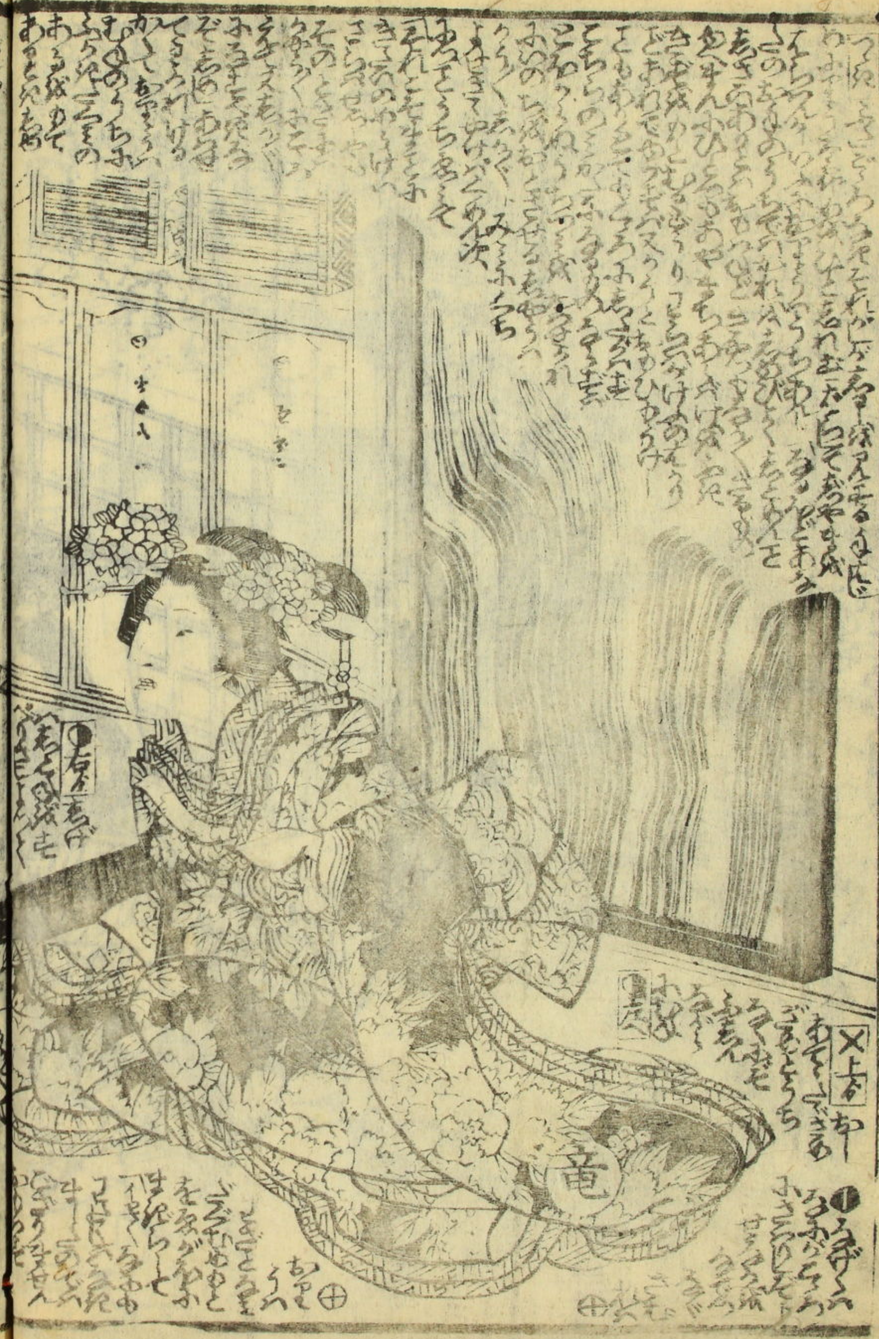
竜

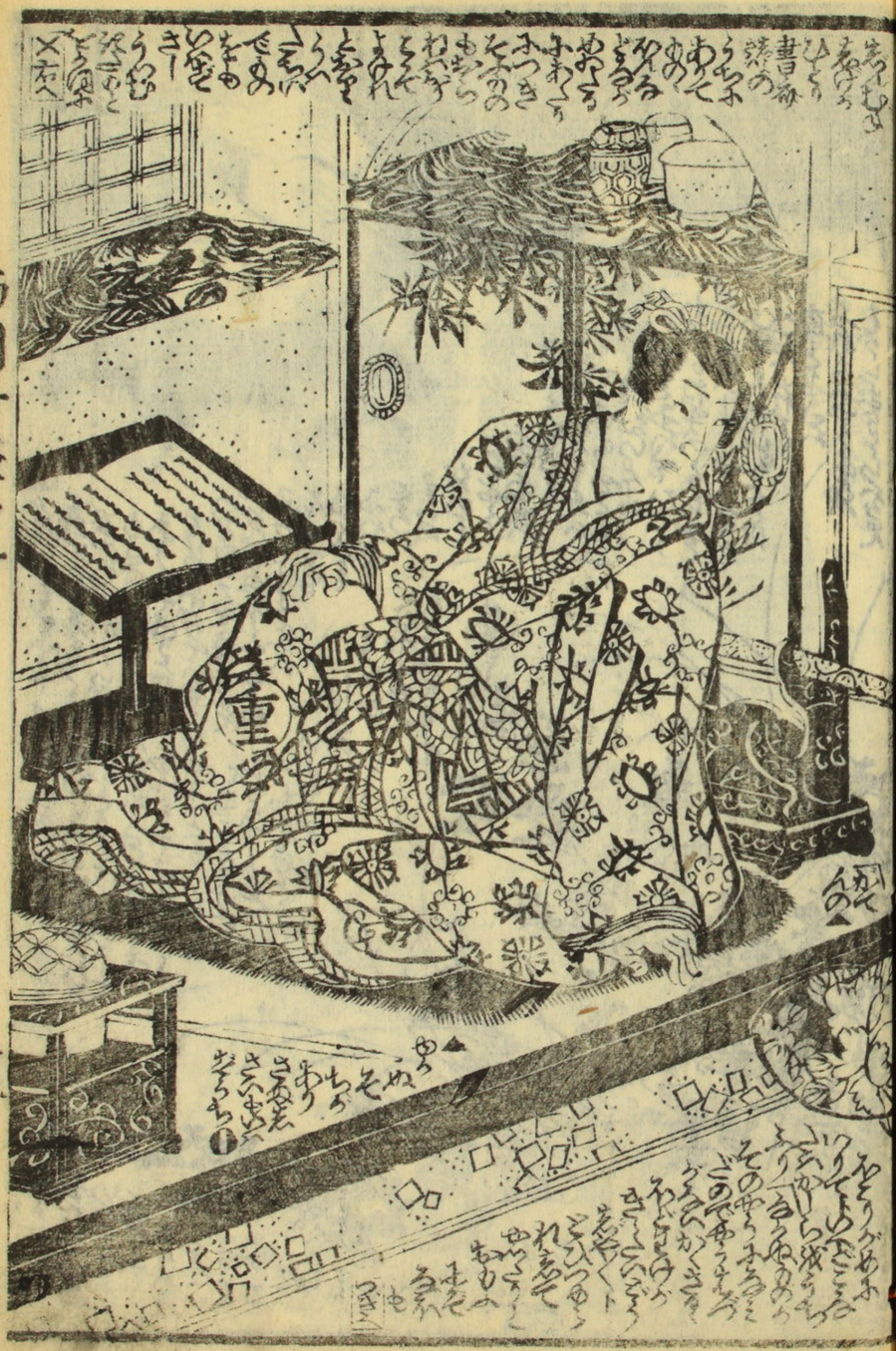

龍


竜

龍




竜


重

龍

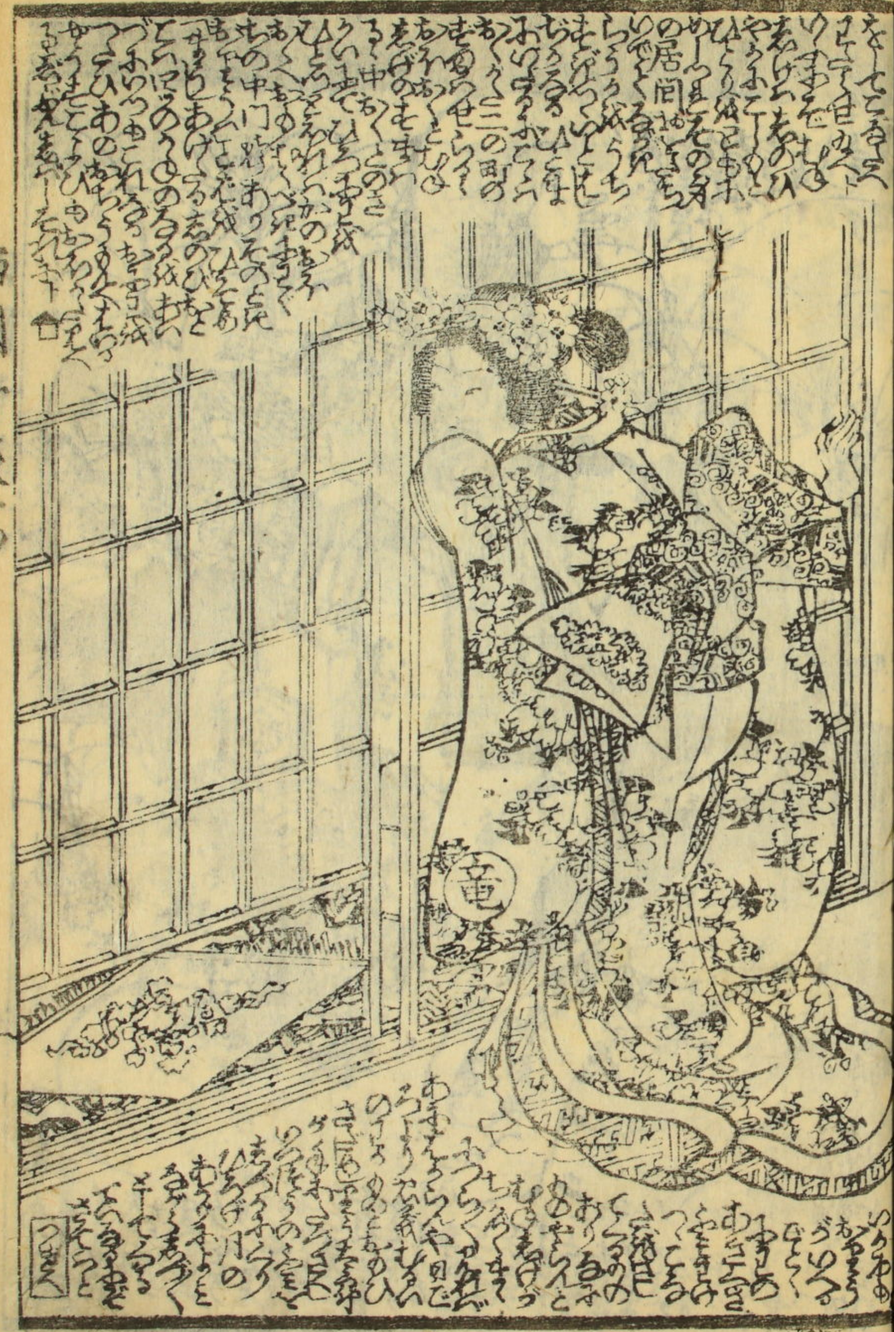
爲永春水補綴

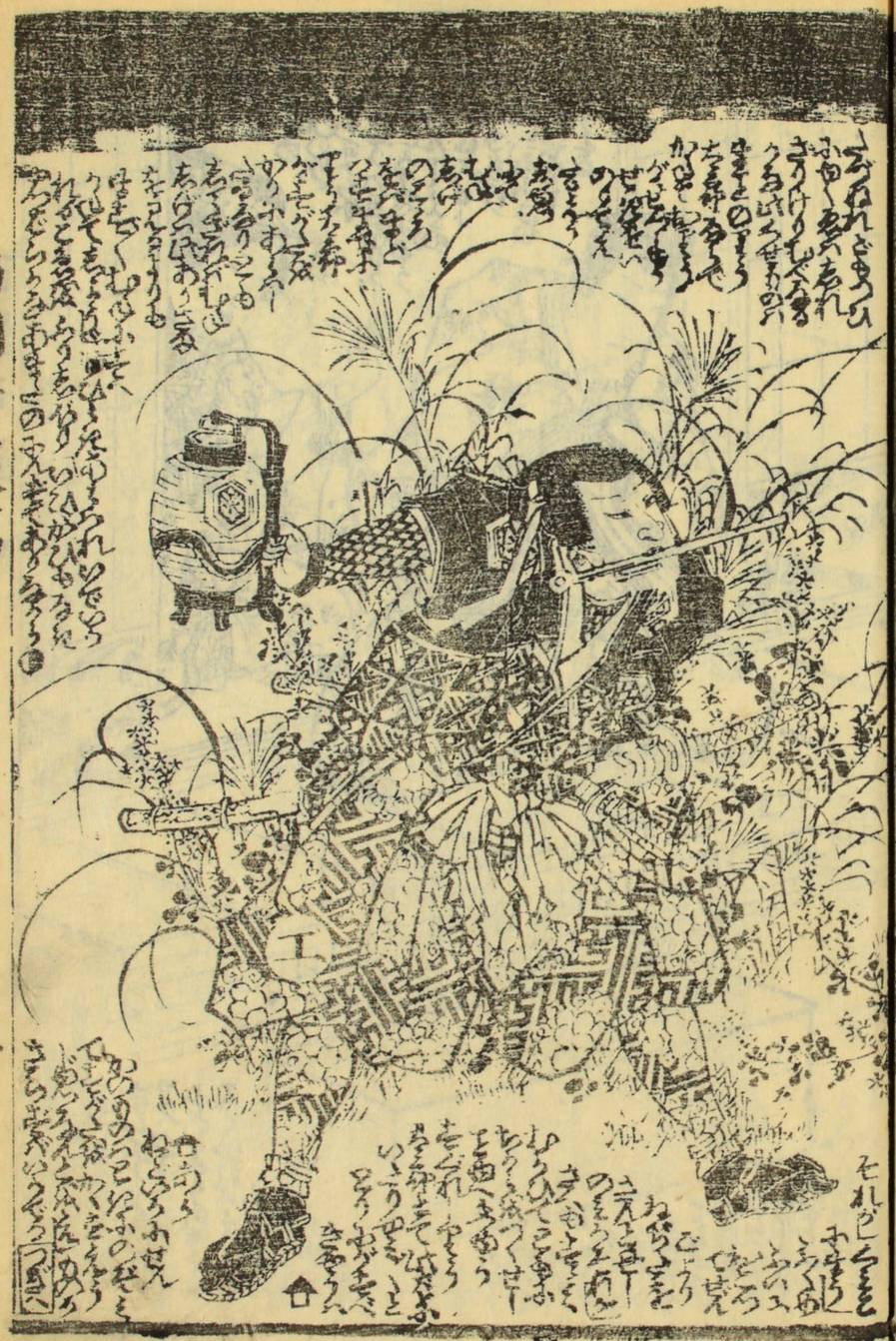
只その心の趣く侭ふ。綴りて一時の戯墨とるまと。策子物語のうへゆゑハ。言でも閣べき支ゑ〳〵。前輯十三篇の末ハ。阿竜ゲ殺生石城祈るの一段。這ハ奇ともるゝ過さんと看官憶ひかへんゑれど。同氣かゝゑも相求め。同病自ら相憐むの。理をゆて推もとゑハ。毒婦ゲ祈ゑる一念の。那妖怪の幽魂ハ自然と貫通もるとゝ〳〵。終ハ妖術を得〳〵との狡本編既ハ藁成ゑ。此半員の餘帋あれど。毎輯の序ハ誌もべき。言の葉草の露ゑとも。わ〳〵ざるまふとゝもるゑ。余計る支さ述るふるゑ。

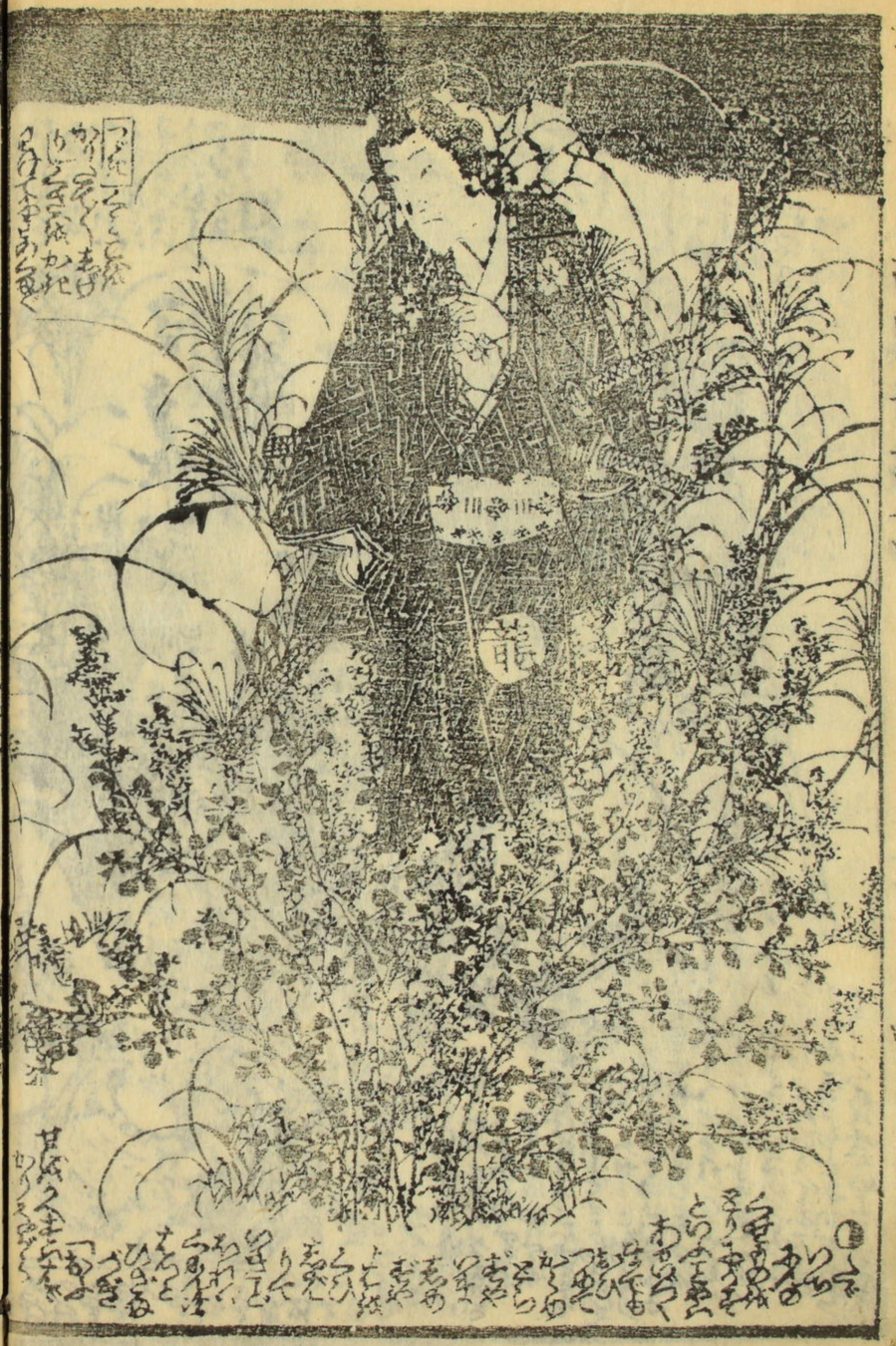
文久二稔
壬戌孟春

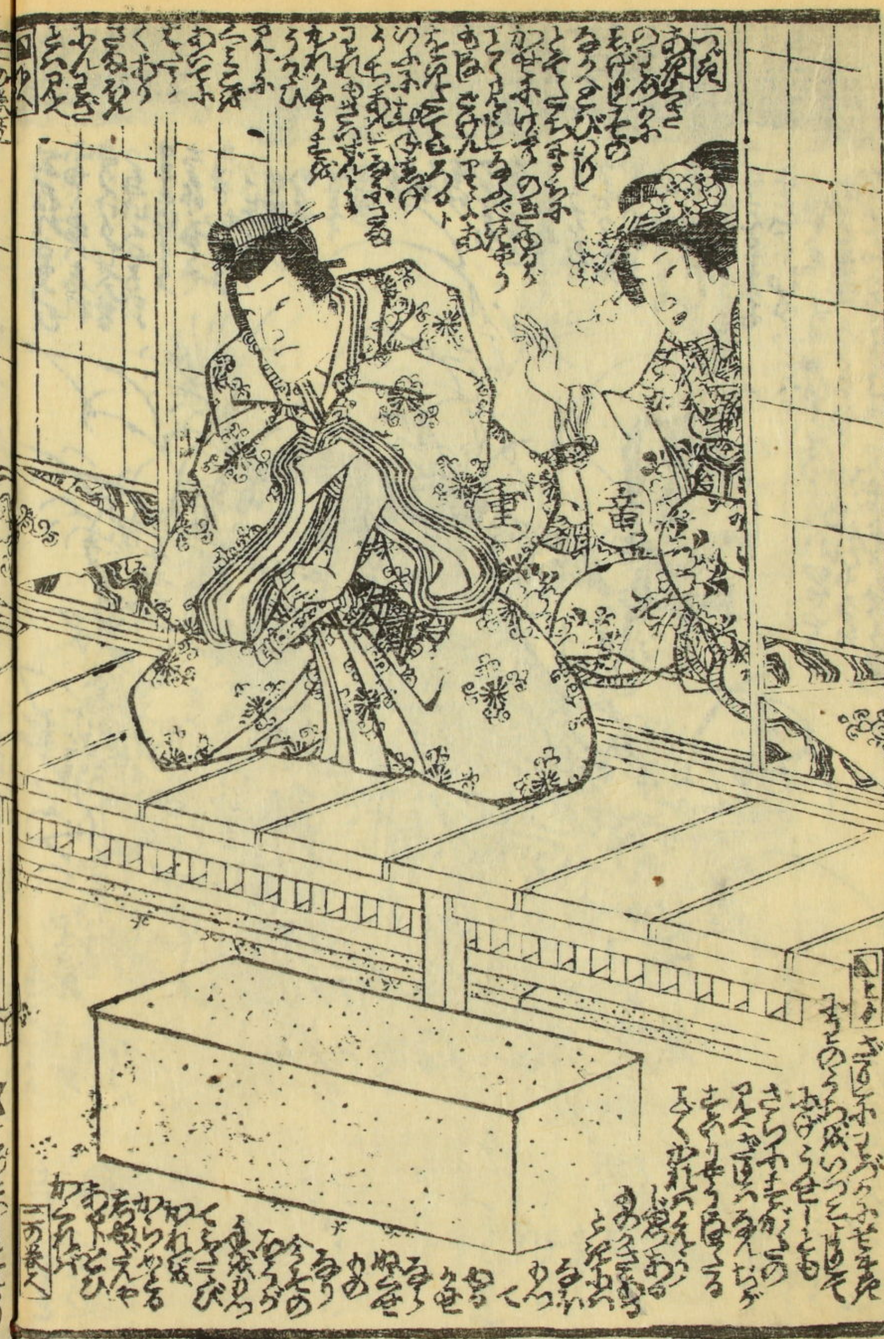
爲永春水識

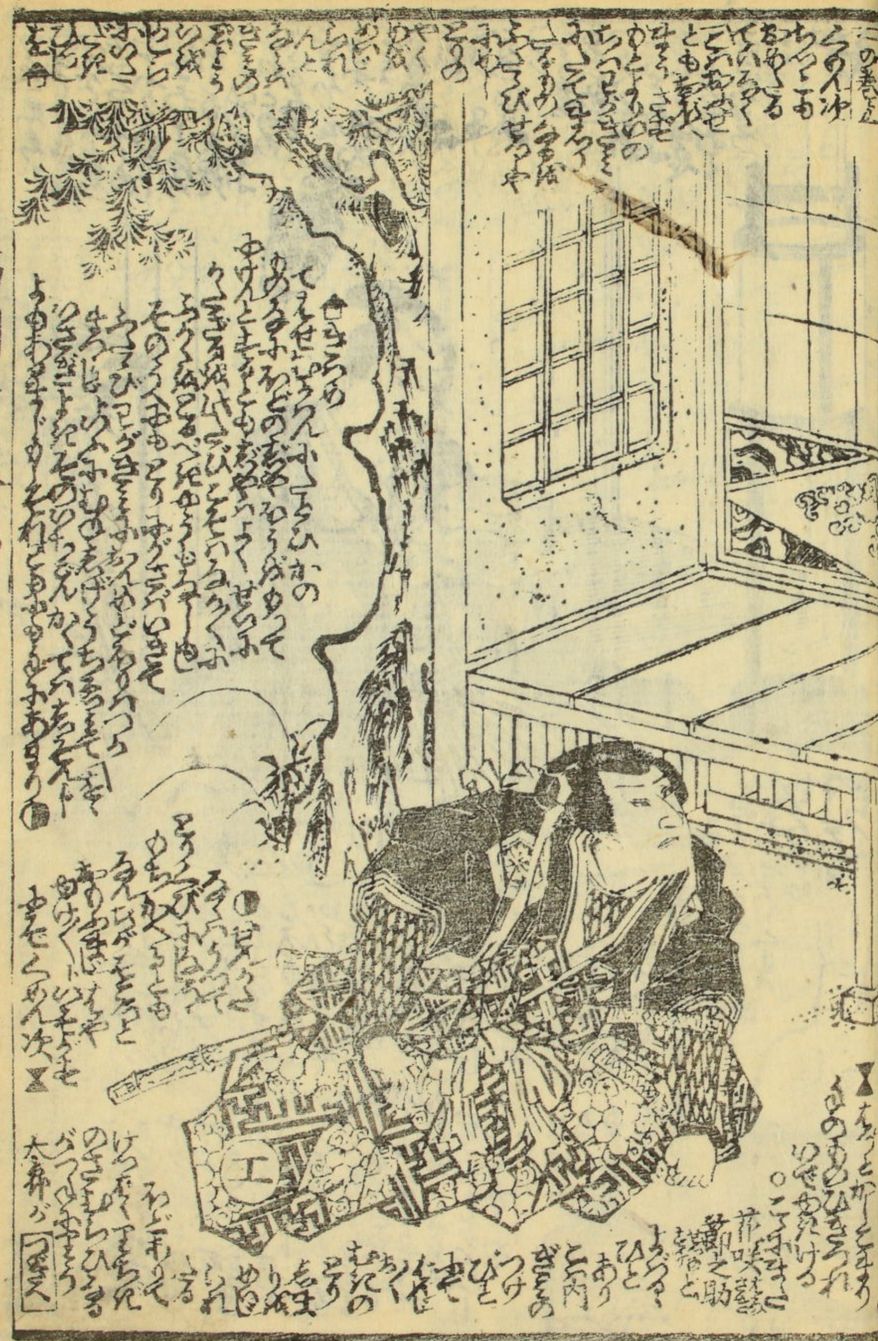
八代の別館二町閑居の躰

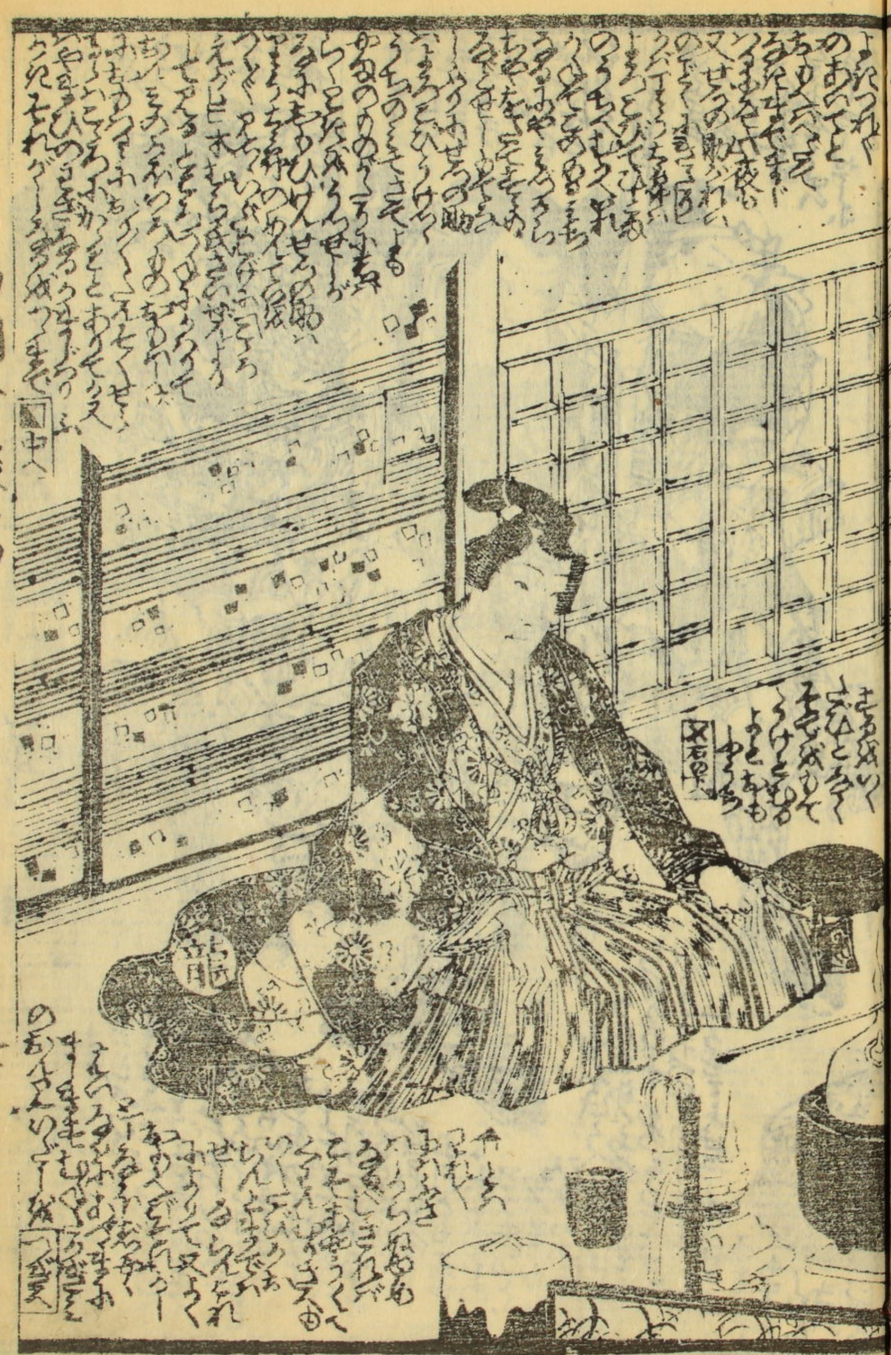


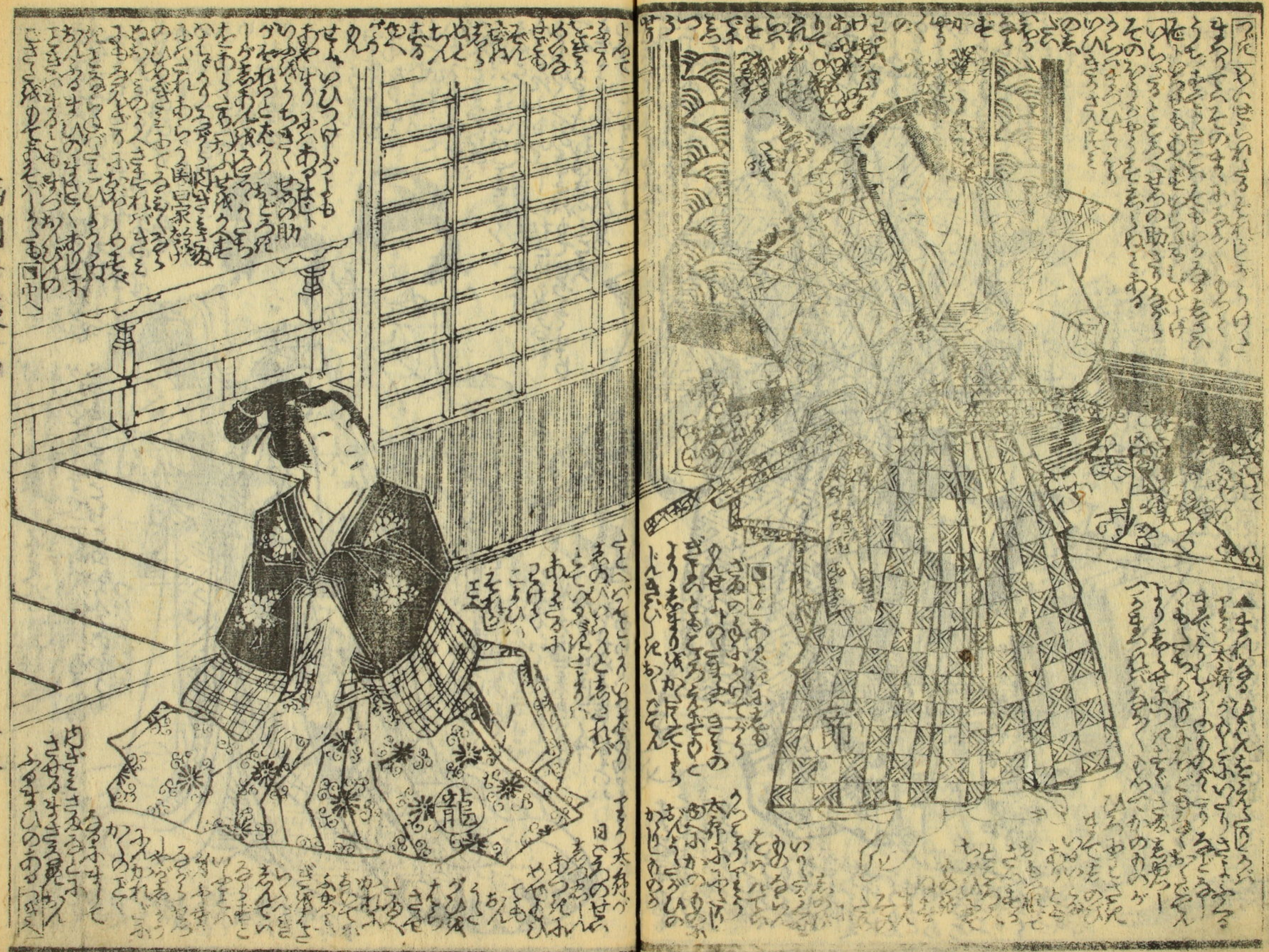




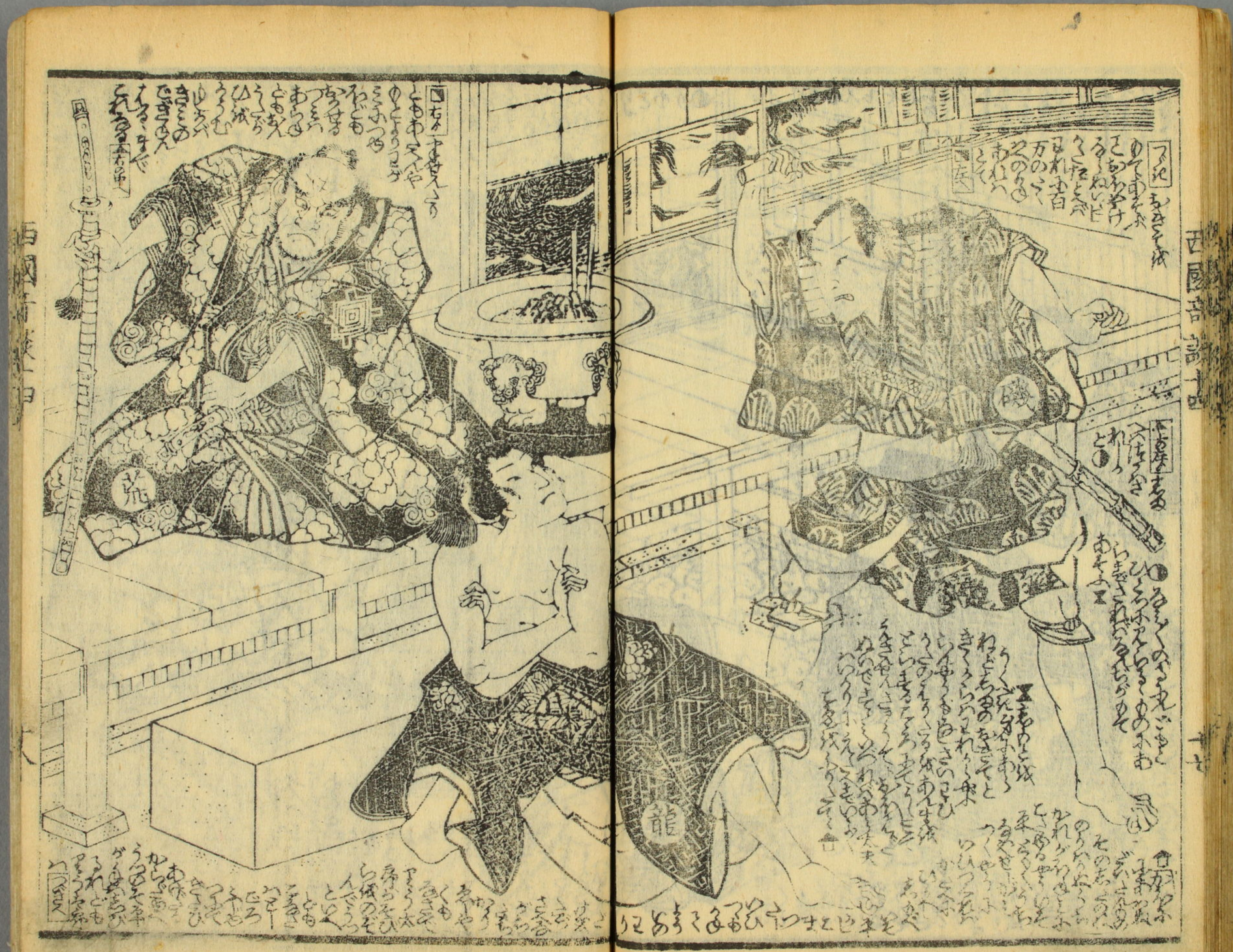


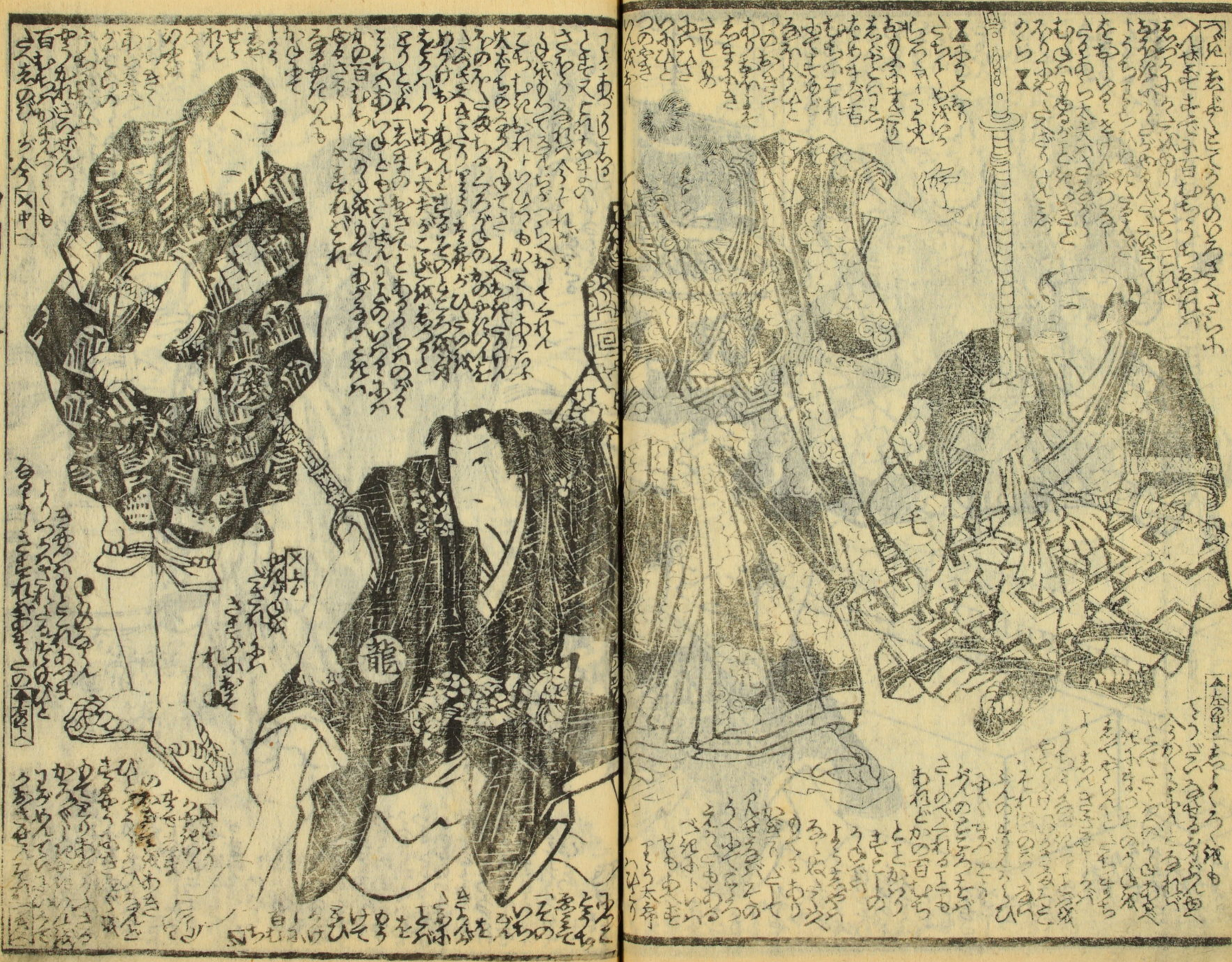






竜





浪

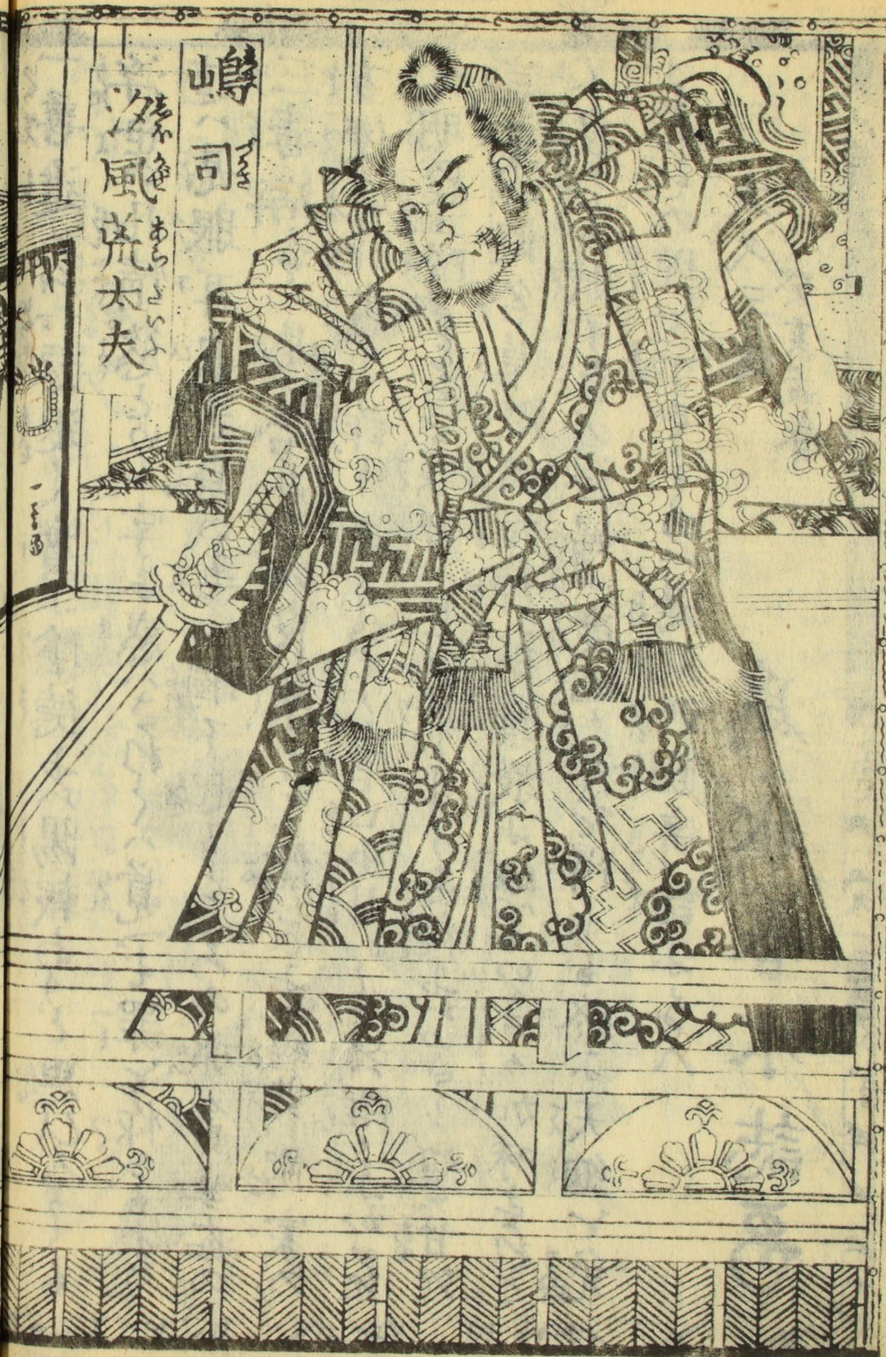
龍

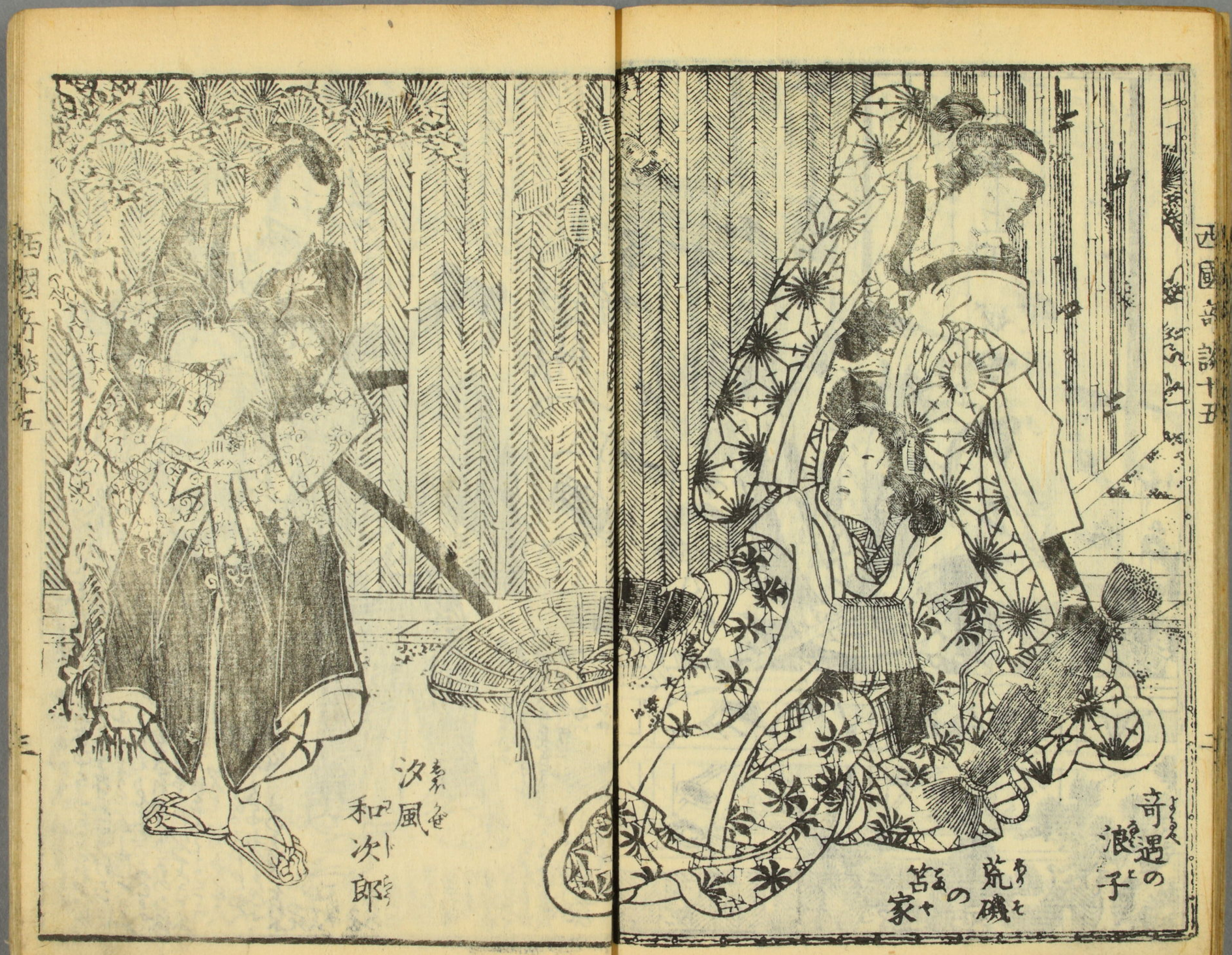
一善進めば一惡退く。實ふ陰德ふ陽報ありと思ひ、浮世の凡情、慾といふ字ふ惑はされ、覺ずむ罪と作ることもあり。這ハ是眼耳鼻舌身の五ッふ觸て起るところの那貪嗔痴の三毒病なり。是と治もるの良藥とて、儒家ふ經典、佛家の方便咸能書ふ詐りあ〳〵とも呑者口ふ甘か〳〵もの醒るふかれ光明の生醉ところと作者が七加減とまゝも程ふ言葉の假名草紙所謂神祇釋教ふ。戀もいとすろ加味されど不良の姦賊不貞の淫婦一度已ん意と得ーも終ふ天網と免ぬその理と示もるものへ是此西國奇談ふ。

文久三稔
癸亥孟春

爲永春水誌

下奴
磯平

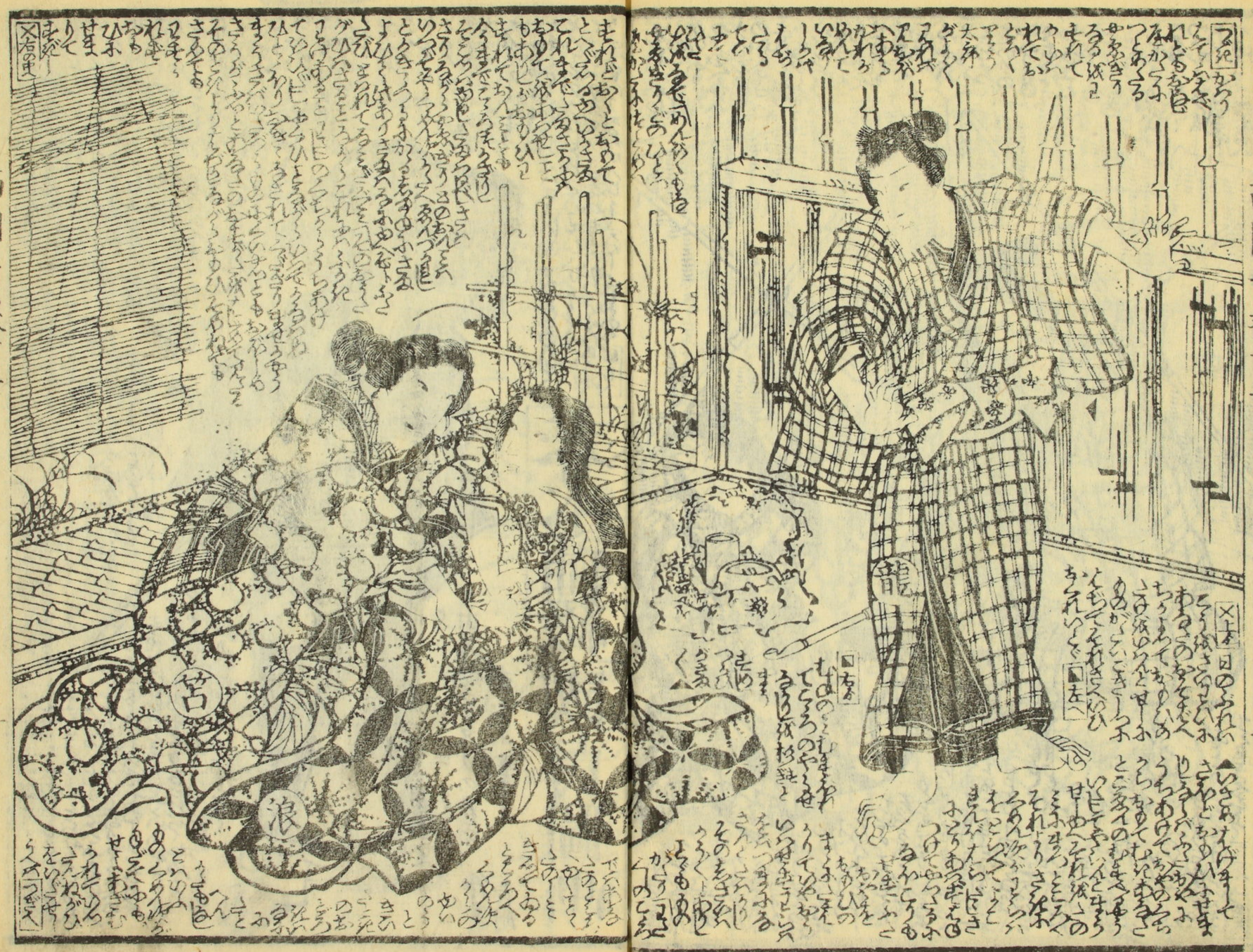

嶋司
汐風荒太夫


西國音訪十五
奇遇の浪子
荒磯の苫家
素色
汐風
和次郎
西國音訪十五

龍

浪
宮

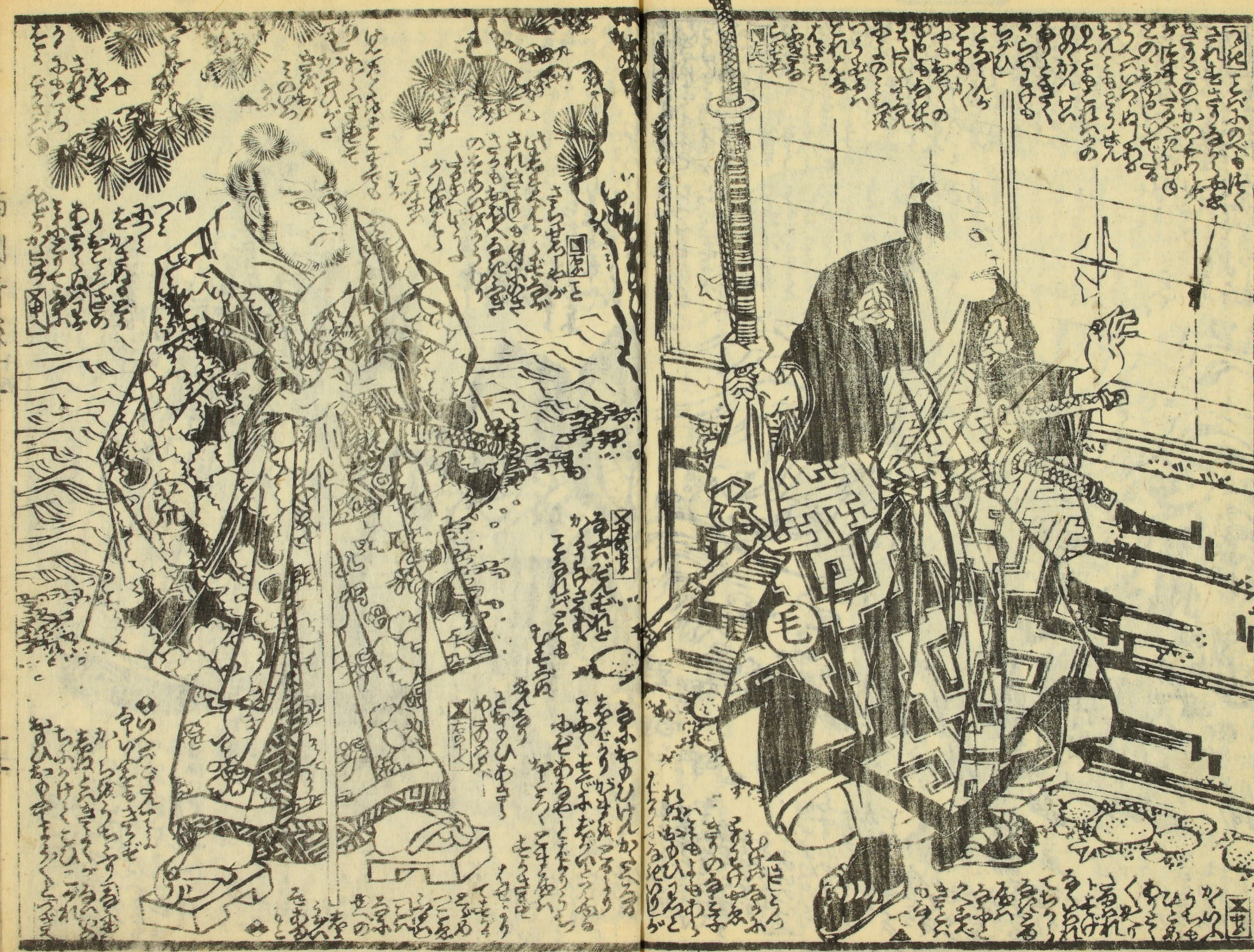
龍



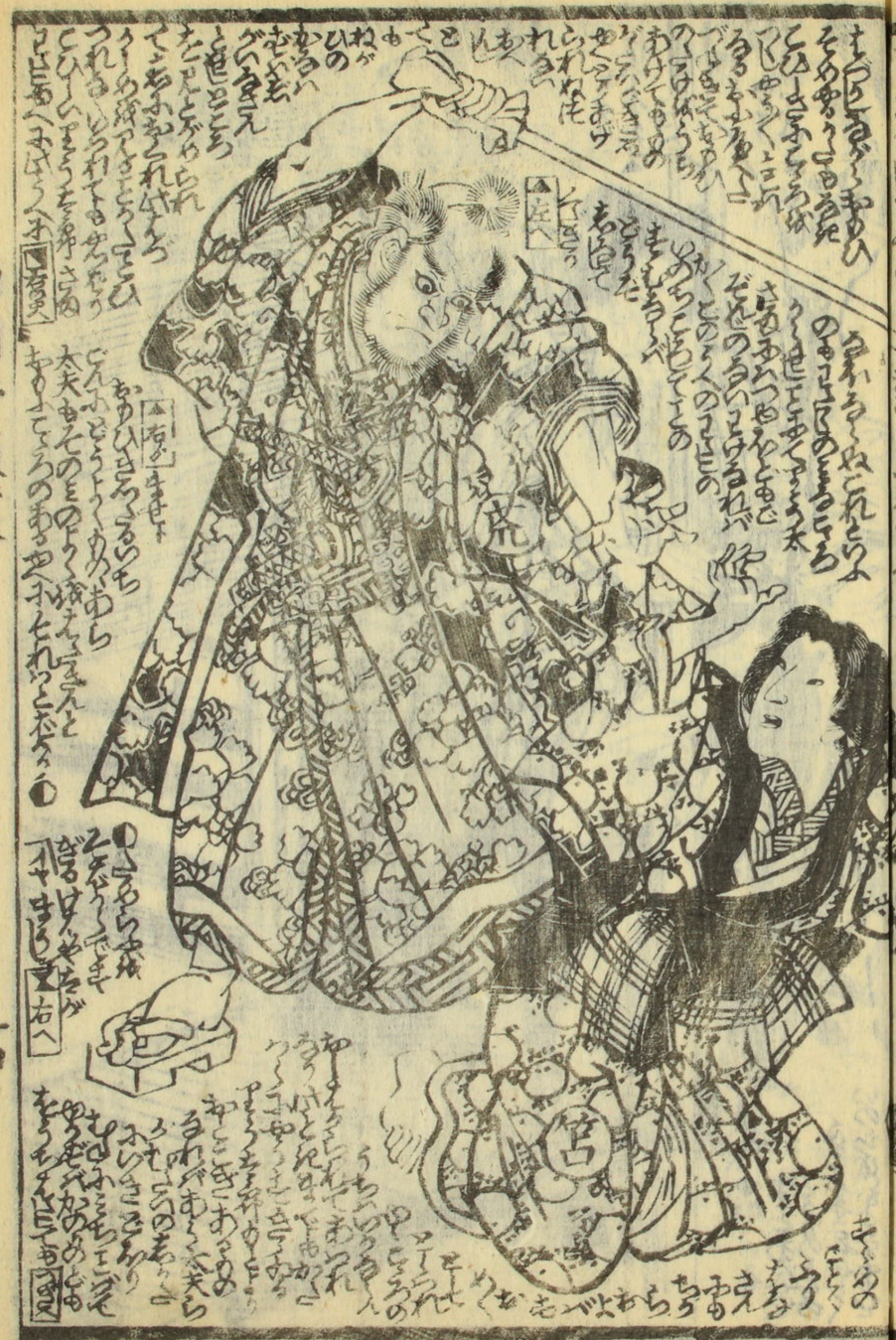
春水補綴　國貞圖画

○此人物の支次の巻の枕文に委し

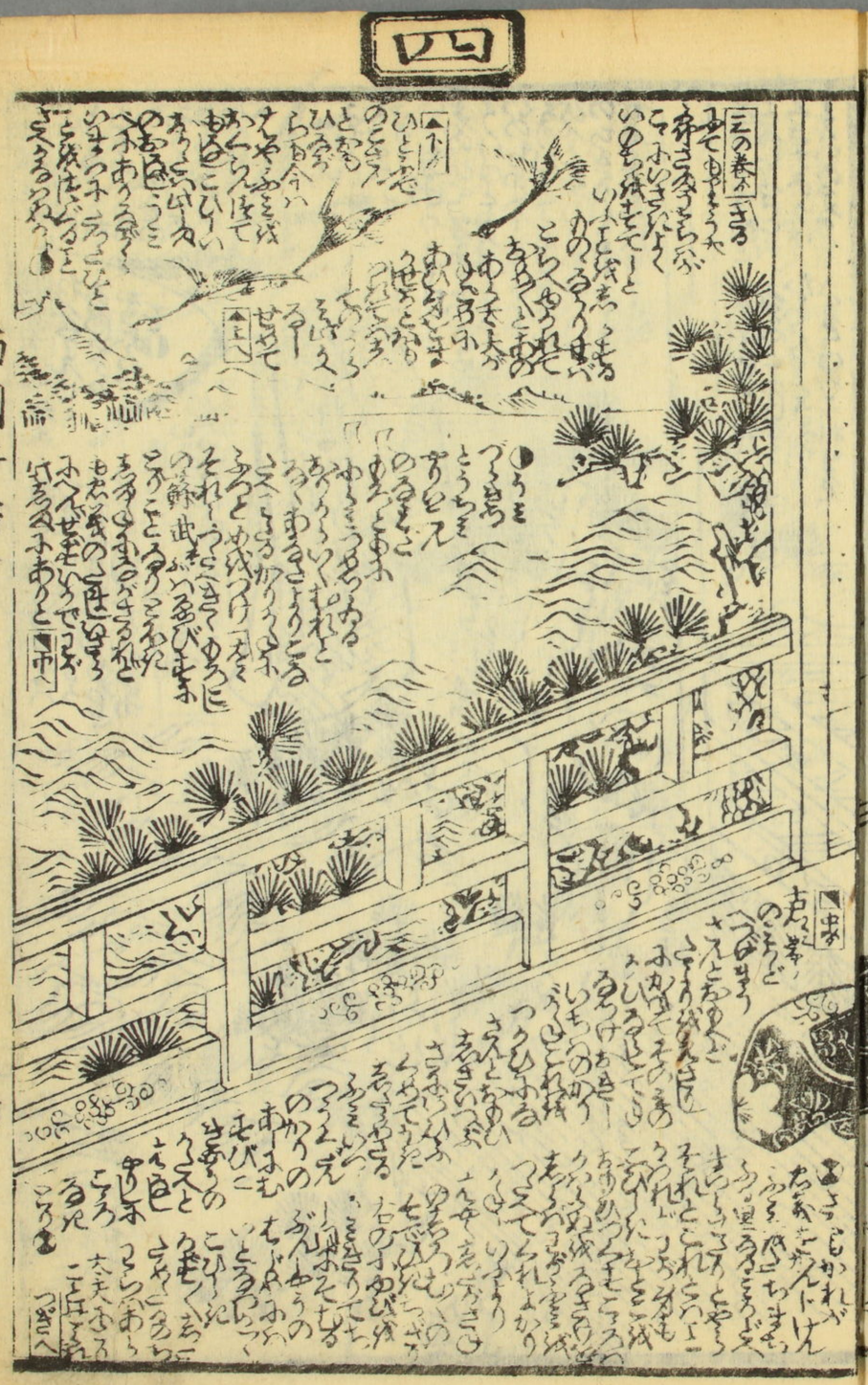
浄書　青洲



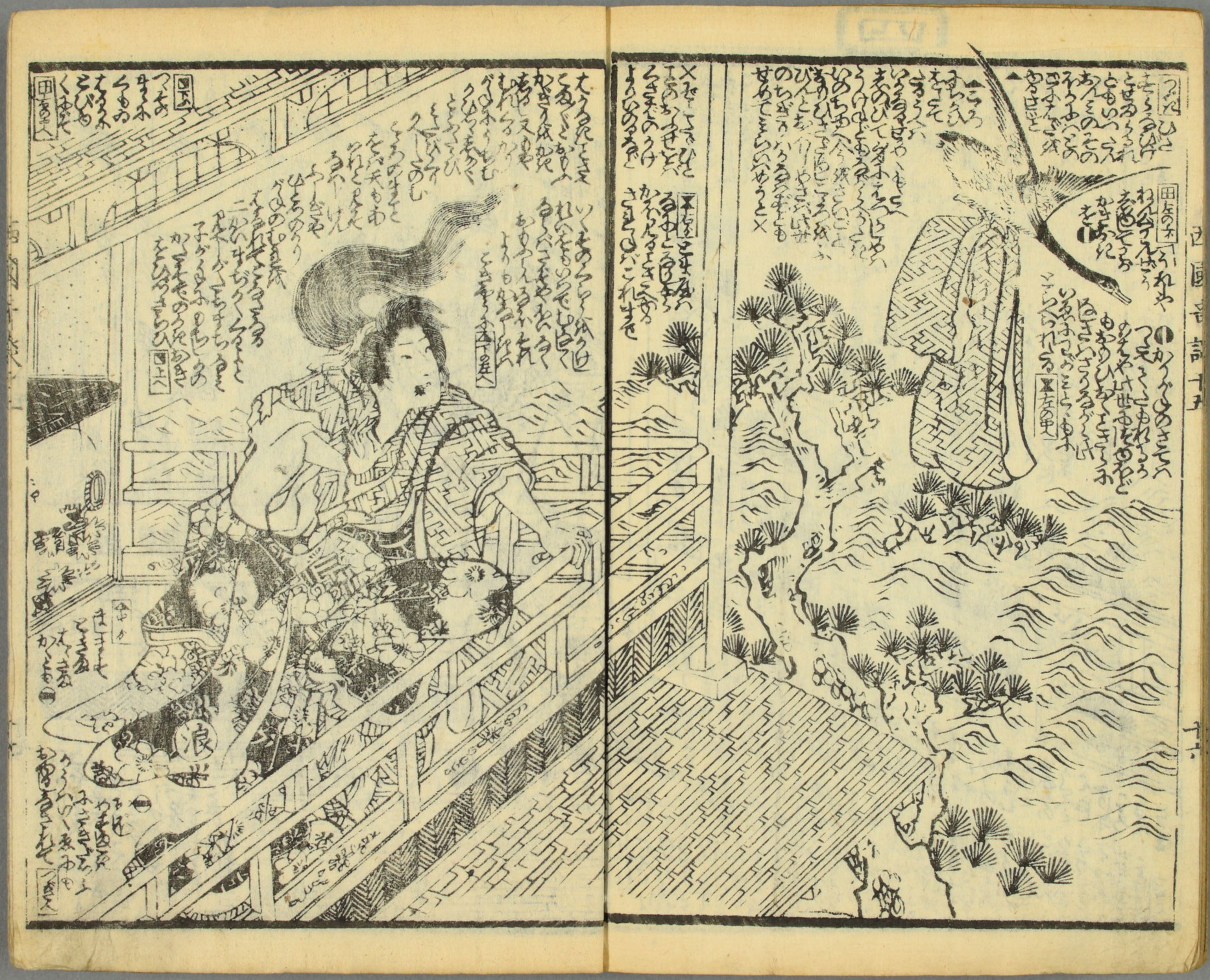
浪
龍
毛

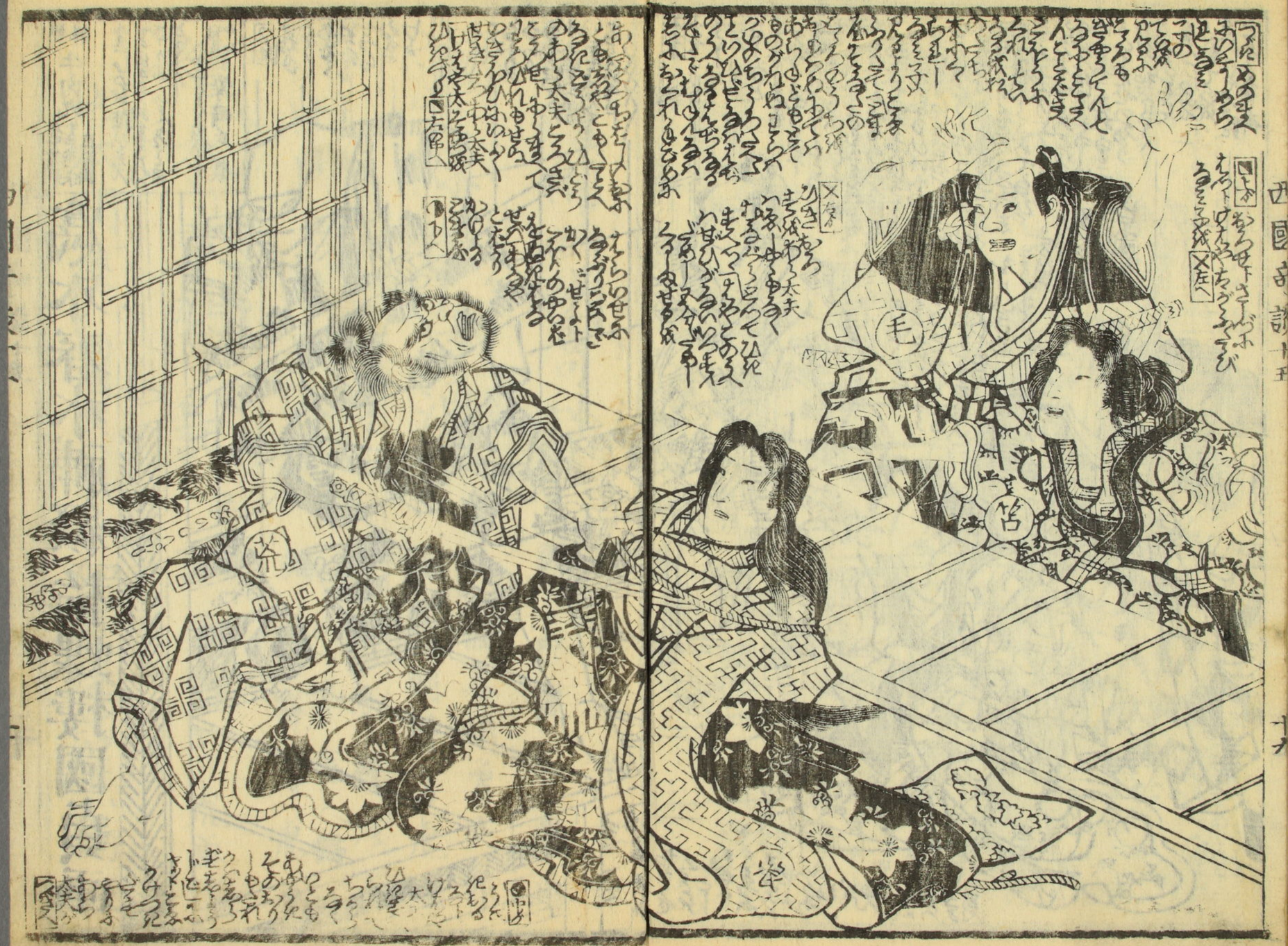


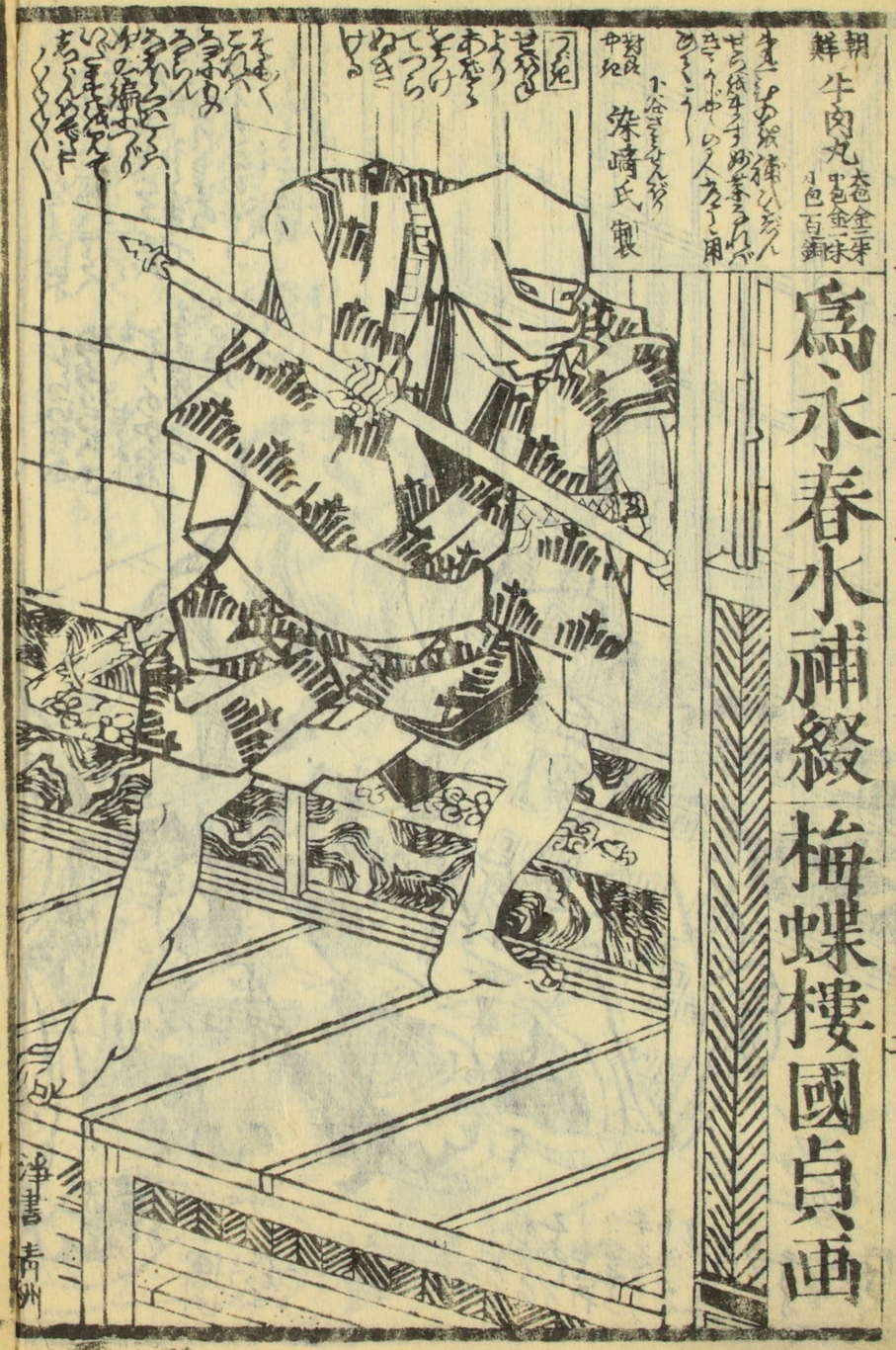
龍



浪







爲水春水補綴　梅蝶樓國貞画

新增補西國奇談　廿一編　爲水春水作　廿二編　孟齋芳虎画

薄緑娘白浪　九編　假名垣魯文作　十編　錦朝樓芳虎画

隅田川月と梅若　五編　柳亭種彦作　山亭有人編次　六編　孟齋芳虎画

繪本太閤記　三編　孟齋芳虎画作

地本問屋　西國廣小路　加賀屋吉兵衛板